

「地域の論点」 論点9 若者インタビュー企画  
長野をクイズの街へ ～私たち高校生の挑戦～

長野高校非公式クイズ研究会 NEQ

会長 宮坂 玲志 (2年)

丸山 蒼 (2年)

今回のインタビューは、長野高校で現在は非公式ではありますが、クイズ研究会を立ち上げて、高校内だけにとどまらず他校生とも連携をしながら長野市並びに北信地域の高校生でクイズコミュニティを作ろうと日々努力をしている会長の宮坂さんと丸山さんにお話を聞いてみたいと思います。勉強とは別の軸を作り活動しているお話は、若い方々に刺激になると思います。それではよろしくお願ひします。

### クイズ研究会を立ち上げようと思ったきっかけは何ですか？

私たちが長野高校へ入学して、入る部活を探していた時に入りたいと思う部活がなかったんです。それなら自分で作ってしまおうと思いました。もともとクイズが好きで「高校生クイズ」にも出てみたいと思っていたので、こうしたことが立ち上げるきっかけでした。

1年生の時でしたので、2019年4月の中旬です。まず、私（宮坂）含めて同学年3人で立ち上げました。校則では3人以上で同好会を作ることができるとあったからです。学校側に設立願を提出しましたが、まだ活動実績がなかったため、1年間の活動を見て判断すると学校側から言われました。よって、現在は非公式の言わば“経過観察中”で、メンバーを増やし、活動実績を作っているところです。

### どんな活動をしているか教えてください。

まずは勧誘ですが、3人からスタートして、一時は10数人まで増えましたが、2020年3月で6人、2020年12月で13人（2年8人、1年5人）といった状況です。

実際の活動ですが、平日は毎日活動しています。

- ・メンバーで集まり今後の方針や運営方法などを話し合う
- ・クイズを出し合って腕を磨くとともにクイズの創作も行う
- ・校内新聞にも取り上げられるなど広報活動も積極的に展開
- ・岐阜県や新潟県で行われたクイズ大会に出場

こうした活動の中で、私たちの活動への意識を変えた出来事がありました。県外のクイズ大会に出場した際、同じ県内の松本深志高校クイズ研究会や県外の人たちとも交流が生まれました。多くのことを話し、そして聞くことはとても楽しい体験で刺激的なものでした。こうした機会を県内でも増やしていきたいと思うようになりました。

## 新たな活動へのチャレンジについて教えてください。

はい、先ほどお話ししましたクイズ大会での体験がきっかけで高校間の垣根を越えて団体を作り、さらにイベントも主催したいと思い、2020年10月に方策などの話し合いを始めました。高校生でクイズや雑学が強い人はいますが、研究会や同好会といった形では北信地域の高校ではないということが分かりました。話し合いを重ねて行動を始めようと思いましたが、コロナ禍という状況もあって、なかなか他校に声をかけられていないのが現状です。

そんな折、長野高校で実施されている総合学習の一環で研究会のメンバーが南石堂町商店街さんへフィールドワークに行き、商店街さんから「何か駅前をフィールドとしてやりたいことがあればぜひ一緒にやりましょう！」とお言葉をいただきました。学校に戻ってからの話し合いで、『相談してみよう！』ということになりました。なぜかと言うと私たちは垣根を越えた活動をするに当たりまず、①長野駅前に気軽に集まれる場所を作りたい②主催イベントを開催したい、この2点が活動目標としていたからです。

今日はインタビューもさせていただいていますが、先ほどご相談したことも少しずつ前に進めたいと思っています。

## それでは商店街とのコラボ事業はどのようなことをお考えですか？

気軽に集まれる場所ということについては、どこか可能性がある場所や建物、部屋があれば教えて欲しいですし、私たちは何をすればいいか分かれば持ち帰って研究会できちんと対応するようにしたいと思っています。宮下さんからの商店街とのコラボ事業として公民館をお貸しいただける案は大変有難いご提案だと思っています。

イベントの開催については、もちろん最終的には独自での主催という形を考えていますが、まだ走り出しですので最初からうまくいかないということも理解しています。その中で宮下さんからこちらも商店街とのコラボ事業として、ゴールデンウィークでのイベントや蟻の市、ハロウィンストリートなどの長野駅前で実施される催しについて、南石堂町商店街エリアでスペースをもらって自分たちで運営するという案は現実的で、頑張れば実施できそうなので早く他のメンバーにも話してみたいと思っています。

## 新しい活動のイメージが見えてきた中で今後についてはどうお考えですか？

研究会としての土台をしっかりと作ることが設立メンバーであり年長の学年である私たちの役目だと思っています。土台というのは、どのようにすれば楽しくクイズができる環境が普通となっていくのかを整えていくことだと思います。それが長野駅前で気軽に集まってクイズに関われる環境だとも思っています。まだまだ知名度は低いですが、北信地域でクイズと言えば長野高校と言われるくらいにはなりたいと思っています。

また、自分たち以外でもクイズをやりたい人はいるはずだと思っています。そうした環境がないので、例えばクイズ本などで一人楽しんだり、昼休みの遊びという枠からはみ出せないでいるのだと思います。だから、私たちがそうしたクイズ好きの受け皿になりたいです。



信濃

北信

## 長野高校生「クイズで町おこし」

長野高校（長野市）の非公式クイズ研究会は11日、クイズに興味が持った信地方の中高校生を対象に「クイズで町おこし」の取り組みを開始した。現在は同校の生徒のなかで「ボスタ」を作るとして他校からメンバーを集め、長野駅前商店街振興組合（同）と協力し、「クイズを通じた町おこし」にも取り組む方針と意気込みを語った。

研究会は、2年生で会長の高坂玲志さん（17）と長野市にあるから01の年の入生直後に設立。学校公認ではないが、現在10人ほどで毎週クイズの練習や、問題作成などを続けている。より大勢でクイズを楽しめる場を目指し、しなののり（さつまいも）のイベントなど、クイズの練習やイベントの準備を進めている。

研究会は、2年生で会長の高坂玲志さん（17）と長野市にあるから01の年の入生直後に設立。学校公認ではないが、現在10人ほどで毎週クイズの練習や、問題作成などを続けている。より大勢でクイズを楽しめる場を目指し、しなののり（さつまいも）のイベントなど、クイズの練習やイベントの準備を進めている。

研究会は、2年生で会長の高坂玲志さん（17）と長野市にあるから01の年の入生直後に設立。学校公認ではないが、現在10人ほどで毎週クイズの練習や、問題作成などを続けている。より大勢でクイズを楽しめる場を目指し、しなののり（さつまいも）のイベントなど、クイズの練習やイベントの準備を進めている。

↑ 2021年3月22日信濃毎日新聞北信欄

長野市民新聞

南石堂を拠点にクイズサークル

## 北信地方の中高生対象 街の活性化に一役

クイズを通じた町おこしをしよう、長野高校クイズ研究会が21日、北信地方の中学生・高校生を対象にクイズサークル「クイズで町おこし」を設立した。クイズの知識を高め合いながら、南石堂町商店街振興組合が誘引してイベントを企画し、商店街の活性化に取り組む。同研究会は、クイズを通じて若者が集まる場をつくりたいと意気込みを語った。

研究会は、2年生で会長の高坂玲志さん（17）と長野市にあるから01の年の入生直後に設立。学校公認ではないが、現在10人ほどで毎週クイズの練習や、問題作成などを続けている。より大勢でクイズを楽しめる場を目指し、しなののり（さつまいも）のイベントなど、クイズの練習やイベントの準備を進めている。

研究会は、2年生で会長の高坂玲志さん（17）と長野市にあるから01の年の入生直後に設立。学校公認ではないが、現在10人ほどで毎週クイズの練習や、問題作成などを続けている。より大勢でクイズを楽しめる場を目指し、しなののり（さつまいも）のイベントなど、クイズの練習やイベントの準備を進めている。

↑ 2021年3月23日長野市民新聞3面

※本稿は、南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が2020年12月22日にインタビューした内容をまとめたものです。